

八戸市内の学生ら運営補助

# 国際大会「貴重な経験」

スピードスケートのジュニアワールドカップでは、八戸市内の学生らがボランティアとして大会運営に携わった。学生らは、普段よりも外国人が大勢いる状況に緊張しながらも、YSアリーナ八戸で初めての国際大会を盛り上げようと、それぞれの役目を全うしていた。

参加したのは、八学大、八戸西、八学光星両高のスピードスケート部に、一

般スタッフを加えた計55人。選手を誘導するゾーンコントロールや表彰の補助を行った。

八学大男子スピードスケート部主将の富岡真望さん（3年）は受付や選手誘導を担当し、「いつもの大会と違う」とは緊張した様子。世界トップレベルの滑りを間近で見ながら、「ここでレースできて良かったと思われるようにサポートしたい」と張り切っていた。

表彰を手伝った八戸西高のマネジャー毛利佐和子さん（2年）は、昨年の特別八戸国体と比べ、「外国人もいるのでこっちの方が緊張する。貴重な経験」と引き締まった表情。中学時代に選手としてアリーナで滑った経験もあり、「（選手には）またここで滑りたいと思ってほしい」と活躍を願った。

（磯野雄太郎）